釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）10月７日発行　VOL 28

学校の生命線

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

校長採用論文試験を一緒に勉強していたある教頭から、先日、論文試験を無事に終えたとの報告をいただきました。そして、報告と一緒に、「こんな論文を書きました」と言って、試験当日に自分が作成した論文を復元して送ってくれました。その教頭が作成した論文には、「現行学習指導要領を確実に実現していく学校をつくっていきたい」という強い決意と、そのために校長として、こんなことに取り組みたいという具体の戦略が示されていました。個人的な感想ですが、秀逸な論文だと思いました。次年度、是非、校長として採用されて、共に校長職に取り組めたらと夢見ているところです。

さて、国においては、次期学習指導要領の改訂に向けた作業が進んでいて、2027年度に新学習指導要領が公表され、移行期間を経て、幼稚園から段階的に全面実施されていく予定のようです。あと２年間ほどは、全ての学校において、現行の学習指導要領の趣旨や内容の実現を目指し各種の教育活動が継続されることになります。

さて、以前もお伝えしたとおり、現行の学習指導要領はこれまでのものとは違い、革新的な内容になっています。「明治維新以来の大改革である」と表現する学者もいるほどです。学校として年度の後半戦が始まっています。残り半年の教育活動の成否は、現行の学習指導要領の趣旨や内容を日常の授業において、確実に実施していくことにかかっていると言ってもよいと思います。そこで、現行学習指導要領における授業の在り方について改めて確認してみたいと思います。

以前の学習指導要領は、変化に対応する力を「生きる力」と規定していました。現行学習指導要領は、自ら未来社会を創造していく力（資質・能力）を育成することをねらっています。「生きる力　学びの、その先へ」というキャッチフレーズは、そんなことを意味しています。この理念を実現していくために、私たちは授業づくりの発想を変えました。

それまでの授業づくりは、まず学習指導要領や教科書で「何を教えるか」を確認し、そのための学習活動を組み立てていました。現在は、まず学習指導要領の目標を確認し、「この学習でどんな資質・能力を身に付けていくのか」を明らかにしています。そして、その資質・能力の３つの柱（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）を発揮させるための学習活動を想定し、組み立てています。ここでの私たち教師の役割は〝Teacher〟（教える人）から〝Facilitator〟（引き出す人）に変わりました。学級という共同体の中で、生徒たちが主体性を発揮し、ともに学び合い、刺激し合いながら学びを深めていく。その道筋を整理し、生徒たちの力を引き出していくことが教師の役割です。このような授業こそ、生徒たちの今と未来をつなぐ架け橋となります。

学校の生命線は「授業」です。生徒にとっても教師にっても、「授業」をいかに刺激的で面白いものにできるかが、後半戦の鍵だと捉え、授業改善を継続していきます。